



年 組 名前

道新でワークシート

道内総人口500万人割れ

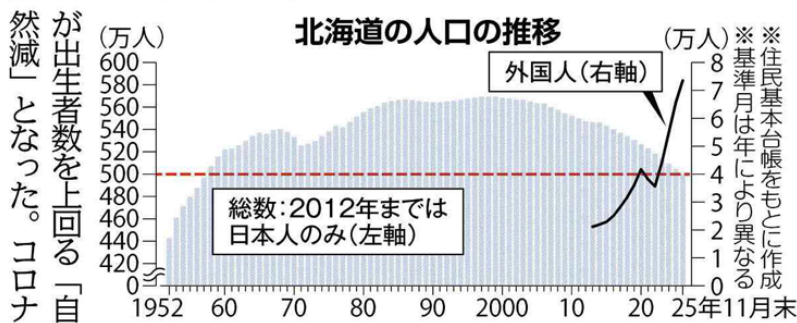
11月末 68年ぶり、自然減続く

北海道は19日、外国人を含む住民基本台帳ネットワーク（住基ネット）上の北海道内の総人口が11月末に499万9439人となり、500万人を下回ったと発表した。住民基本台帳上で道内の人口が500万人以下になるのは、1957年（昭和32年）以来68年ぶり。技能実習生をはじめとした外国人の転入が増加している一方で、少子高齢化による自然減が、社会増を上回るスピードで推移している。（29面㊦タ張みんな離れていく）

外国人は増1.47%に

道によると、住基ネット上の道内の人口は10月末時点では500万2164人だったが、11カ月で2725人減少し、11月末に500万人を割った。総務省によると、今年1月1日時点の都道府県別の人口は福岡県に次いで9番目に多い。2012年以前は外国人を含んでいないことから単純比較はできないが、道内の人口は58年に

500万人に到達。上昇傾向が続いて97年度末に569万人に達したが、以降は毎年減少している。道によると、道内の人口は03年以降、死亡者数が出生者数を上回る「自然減」となった。コロナ



禍の20年以降は毎年の出生者数が3万人を割り込む一方、死亡者数は22年以降7万人以上で推移。自然減は24年までの10年間で2・3倍に増加し、少子高齢化が人口減に拍車をかけている。

コロナ禍を経た22年以降は外国人労働者の増加によって、転入者が転出者を上回る社会増となっており、昨年は4398人の増加だった。外国人の人口は年々増加傾向にあり、11月末時点で前月比1877人増加の7万3503人で、総人口の1・47%となった。出入国在留管理庁によると、国籍別ではベトナムが最多で、インドネシア、中国の順が多い。

道は毎月、住基ネット上の人口をとりまとめている。1月1日時点の住民基本台帳人口は総務省が毎年夏に発表する人口動態調査の元のデータになる。

（武藤里美）

